

画像は千の言葉に価するか

漫画源氏物語

Lynne K. MIYAKE

1. はじめに

源氏物語の一卷完結漫画版が1989年に出版されました。作者は歴史漫画で名の高いつばいこう、監修は源氏研究家清水好子です。そして、その七ヶ月後、日本文学研究者、アラン・タンスマン（Alan Tansman）による訳^①で、英語版の漫画源氏も登場したのです。この英語版に初めて出会った時、私は次の二つの問題に強い関心を抱きました。ことばの画像化の問題と英語訳の問題です。今回の発表では、この二つの問題と、漫画源氏物語をどう鑑賞すべきかについて話したいと思います。

2. 言葉から画像へ

本来なら、原作の源氏物語とサイデンステッカー訳^②の比較をし、原作とつばいこうの漫画（以下「つばい源氏」）の比較をし、さらに、つばい源氏がタンスマンの翻訳でどのように変化したかを見たいところですが、今回の研究では、その規模を縮小し、つばい源氏で画像化の問題を考えながら、タンスマン訳とサイデンステッカー訳とを対比することで漫画における翻訳の問題を考えます。漫画源氏といえば、1980年に第一巻が登場した、大和和紀の「あさきゆめみし」^③も知られており、今回はそれを「大和源氏」と呼ぶことにします。

言語表現が画像化されているつばい源氏とサイデンステッカー訳の最も顕著な差は長さだといえます。サイデンステッカー訳では千頁に相当するものが、つばい源氏では、三百頁に激減しており、ざっと目を通すだけでもかなりのも

のが削除されているのがわかります。視覚的芸術性を重視し、画像化した時にその素晴らしさを最大限に発揮できるものを選んで編成してあります。和歌や悠々たる描写は、読者に日本古典文学の知識を要求するので、殆ど消えてなくなります。現代の日本の漫画消費人口の多くはおそらく古典の知識がないので、分かりやすく見ごたえのあるものが強調されます。例えば、夕顔、葵、若紫の巻で六条御息所が物の怪となって登場する場面や、源氏と女性たちの恋愛場面などです。

図1（48-49頁）は六条狂乱の場面ですが、六条は白の背景に灰色でその輪郭だけが描かれています。髪は乱れ、黒目の部分もありません。これに比べ、源氏、右近、すでに死んでいる夕顔でさえ、六条より生きた人間らしく見えます。視覚的にも、言葉による説明でも、物の怪が夕顔を殺したことは確かで、サイデステッカー訳と違い、読者には想像の余地がありません。



図1

源氏と女性達の恋愛場面は、20世紀的な生々しい描写とまではいかないまでも、平安の美的伝統を超え、色情濃く描かれています。図2（62-63頁）は源

氏と藤壺の宿命的な交わりの場面ですが、サイデステッカー訳ではほのめかしてあるだけのものが、つばい源氏では、この恋愛劇を特別に強調しています。そのほかにも、源氏が藤壺の手に触れる場面や接吻する場面、夕顔や紫を抱く場面など、恋愛場面は数あまたです。



図2

話の筋も変化を遂げます。つばい源氏は、源氏の栄華と恋愛をたどり、物語の中核をなさない筋や登場人物は容赦なく消えるのです。末摘花や、空蝉の巻がないのは、サイデステッカーの要約版と差がありませんが、蛍の巻中の物語論で有名なエピソードさえ削り取られています。蛍の巻は、篝火の巻や梅枝の巻と同様に、二頁に収められているのです。さらに、三百頁のうち、源氏の物語は最初の二百頁で、次の五十頁は主に夕霧と柏木の章、残りの五十頁は薫と匂の章にあてられています。

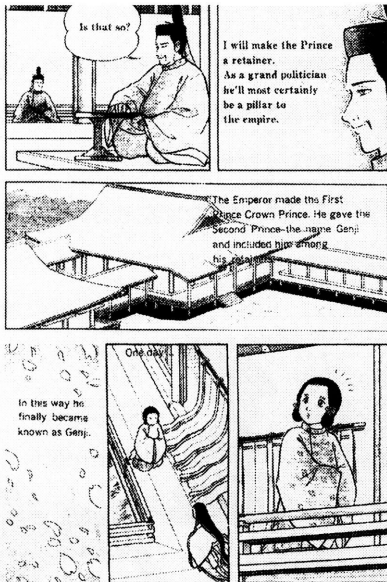
それほど短い作品の中で源氏を丁寧に取り扱くと、他の登場人物、特に女性たちの言葉による描写は当然単純化せざるをえません。女性たちの心中描写(内的モノローグ)が減り、彼女らは単なる源氏の欲望の対象になり、源氏の

口説きに対する対応も個人差がなくなります。つばい源氏の六条が、サイデンステッカー訳のに比べ、悪意に満ちた人物に映り、登場人物一般の感情の広がり細かく表されていないのは、内的モノローグの削減が原因ではないかと言った学生もいました。これは、解釈や画像化ではなく、つばい源氏の短さが問題なのかもしれません。アキラ、スラム・ダンク、エヴァンゲリオン等では登場人物の性格描写が十分にされていますが、どれも数年の歳月にわたって連載されたからこそ、それが可能だったのでしょう。

3. 翻訳は罪作り

つばい源氏ですでに現代日本語が使用されているので、平安期の日本語を二十世紀の英語にする困難さは若干回避されていますが、適切な口語英語表現を選び、敬語や男女の言葉の差を醸し出すことなど、問題は数え切れません。翻訳の常ながら、不自然な言い回しも多々ありますし（21、29、45、95、99頁参照）、誤訳も時々目につきます。例えば、105頁では藤壺の「出家」（“take the tonsure”）が「家出」（“leave home”）と訳されていますし、117頁では朱雀帝が「源氏とまちがいを犯した朧月夜を許し」（“forgave Oborozukiyo for her transgression with Genji”）が「源氏と間違えた朧月夜を許し」（“forgave Oborozukiyo for mistaking him for Genji”）と誤訳されています。

平安時代の慣習や官職名を二十世紀の英語で置き換えるのが容易でないのは予想通りでしたが、私が想像だにしていなかったのは漫画のコマの位置と順序の問題でした。日本語版では、頁は右から左へ繰られ、登場人物の会話もコマも上から下へ、右から左へと進行しますが、英語版では、上から下への進行は変わりませんが、左から右へと進行するので、見開き頁の左右が逆になります。例えば、英語版の図3（26-27頁）では、源氏が首をかしげ、何かを見上げていますが、読者には何なのかわかりません。図4の翻訳される前のつばい源氏を見ると、源氏が藤壺を見つめているのがわかります。左右の見開き頁の順序が逆になるために、英語版ではしばしば登場人物が空を見つめ、見つめられてい



*Fujitsubo lived north of the Emperor's residence (Seiryōden), west of Kōkiden, in the Hareyasu, called Fujitsubo.

図 3



図 4

るはずの対象がその反対方向にすることがあります^④。

コマの位置と順序、さらに登場人物の向きの問題は、日本語版の左右両頁を一緒に裏返して英語版を作れば解決します。日本語版(図4)を裏返して英語版にすれば、確かに源氏が誰を見ているのかは明らかです。日本の主流漫画の英語訳版ではすでに行われているようですが、登場人物が全て左利きになったり、左前に着物を着るなど、不自然な事もあります。

発話を読む順序も日英では逆です。例えば、図5(49頁)の夕顔が物の怪に襲われたことを源氏と右近が見つかる場面では、まず前景にある右近が源氏を呼び、源氏が答えてどうしたのか尋ねます。しかし、これが英語版になると、まず、呼ばれてもいない源氏がどうしたのか尋ね、それに答えて右近が源氏を呼ぶことになります。タンスマンは、源氏の発話を「(夕顔に)何が起ったのか」と訳すことで、この場面で話の展開と発話の順序が逆になる問題を和らげています。



図5

4. メディアのかき替え：それ自体を鑑賞する

私はここまで、つばい源氏の不完全さだけを強調してきたように思われま
す。言葉を愛し、視覚芸術やメディア研究にあまり縁がなかった私は、無意識
のうちに言葉が画像化する時に失われてしまうものや表現しきれないものを見

つけ出していたようです。そう気づかせてくれたのは、視覚文学とグラフィック小説（漫画）のプロである学生達でした^⑤。彼らにはつばい源氏が視覚メディアであるがゆえに得られる楽しみもあるのだと教えてくれました。それは「自分の好きな小説が映画化された時に、原作ほどいいはずがないと初めから偏見をもって見ないで、映画自体の芸術性や文学性を尊重して鑑賞すべきだ」という論理と同じです。つばい源氏は漫画としては傑作ではなくても、瀬戸内寂聴の源氏物語現代口語訳と同じく、それでいて別の方法で、源氏を鑑賞させてくれないかと私は考え始めたのです。

そんな経緯で、私は漫画を鑑賞し始めましたが、難しかったのは、絵だけから人物を区別し、星の散らばる黒い背景や人物の周りの様々な渦巻き、花や葉を散りばめた背景、動物などによって、幸せ、美しさ、喜び、静けさ、苦悩、苦痛などを味わう事でした。それは、漫画独特の描写コードを読むという未知の世界への旅立ちだったのです。

漫画では、一般的に顔と髪型で人物を区別しますが、平安時代を背景にしたつばい源氏では、男性も女性もそれぞれみな同じ髪型にせざるをえず、眉の形と髭の違いで区別しています。図6（9、24、41頁）が示すように、葵の眉は外に向かって跳ね上がり、紫のは太く、藤壺のは顔の中心部が太くだんだん細くなります。帝は髭、惟光はモミアゲが特徴です。葵と息子の夕霧は同じ眉ですし、頭の中將と息子の柏木も目鼻立ちがそっくりです。花などで女性を区別する時もあります。藤壺の藤（27、149頁）、夕顔の夕顔（39頁）、葵は葵（5頁）、そして、雲居の雁の飛ぶ雁（158、195頁）、という具合です。

中心人物は美少年・美少女に描かれ、脇役と区別されます。悪者の弘徽殿の太后はやや醜く、侍女や仕えの者も、面白い顔に描かれています（図7参照）。六条御息所の物の怪の場面でも見ましたが、瞳のない顔は苦悩苦痛を、黒い背景、尾の曲った猫、コマ全体を飾る花はそれぞれ感情の高まり、不幸の前兆、優美を表します。さらに、コマの大きさと位置、人物を描く角度さえ読者が読む速さを調節します。

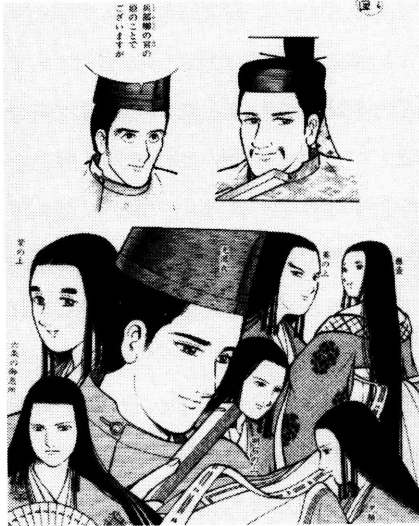


図6



図7

言葉だけではなく画像の送るメッセージに注目し始めると、つばい源氏は美しい劇画を眼前に繰り広げます。明石の姫が母の明石と別れる場面（147頁）では姫が本当に愛らしく描かれています。藤壺の入内のコマ（26-27頁）と藤壺の死を悼む源氏が流す涙を顔の下半分だけで見せるコマ（150頁）での、歌舞伎の「見え」のような絶妙なポーズには目を見張らされました。源氏の須磨出立（図8、112頁）は透かし絵のような美しさがあります。須磨の嵐の場面（図9、124頁）は動的で迫力があります。賀茂祭で葵と六条の侍臣が衝突する場面（図10、84-85頁）では、コマの枠を取り去り、絵を左右両頁に跨がせて描く「スプラッシュ」という技法が用いられ、絵巻き物のようで、事件の重大さを示します。すでに見た源氏と藤壺の交わりの場面（図2、前出）でも同じ技法が使われていました。

美しさとレイアウトが読者を引き付ける画像も、物語を足早に進行させる技巧として効果的に使われているものも沢山あります。図11（159頁）では、六



図 8

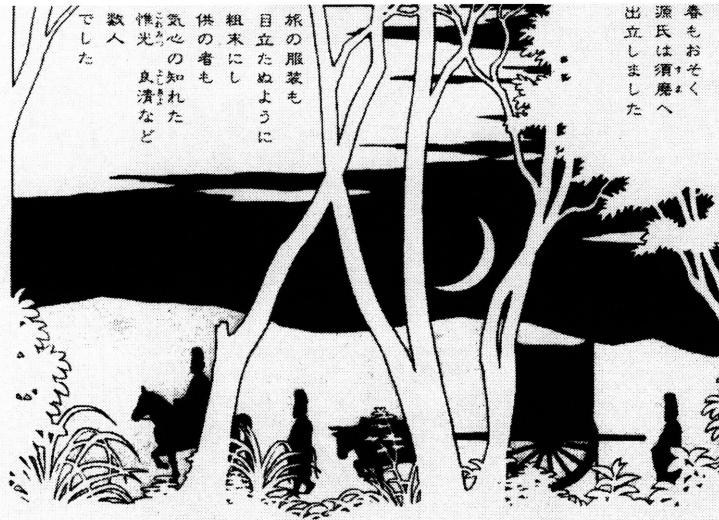


図 9

条院の住まいの振り分けを頁を巧く区切って説明してあります。源氏が須磨から帰った後の出来事も、4頁に巧く簡潔にまとめてあります(140-143頁)。図12(142頁)では二条院の東の御殿の修理の絵の上に末摘花と花散里の顔の絵を重ね、143頁では明石と明石の姫が都に移った経緯を一頁で簡潔にまとめ、物語をはやく進めます。また、蛍と篝火の巻はそれぞれ美しい夜景を入れながら2頁に短くまとめてあります(図13、174-175頁参照)。若干短すぎる感もありますが、斬新で美しいまとめ方だと感心したものです。



図12

5. 米国で「漫画する」：日本文化の探求

日本文学のクラスでつばい源氏を読ませた時、学生達は最初どう読めばいいか戸惑っていましたが、最終的には、日本文学も漫画にも親しんでいた学生達たちが、漫画自体を味わうべきだと説き伏せました。

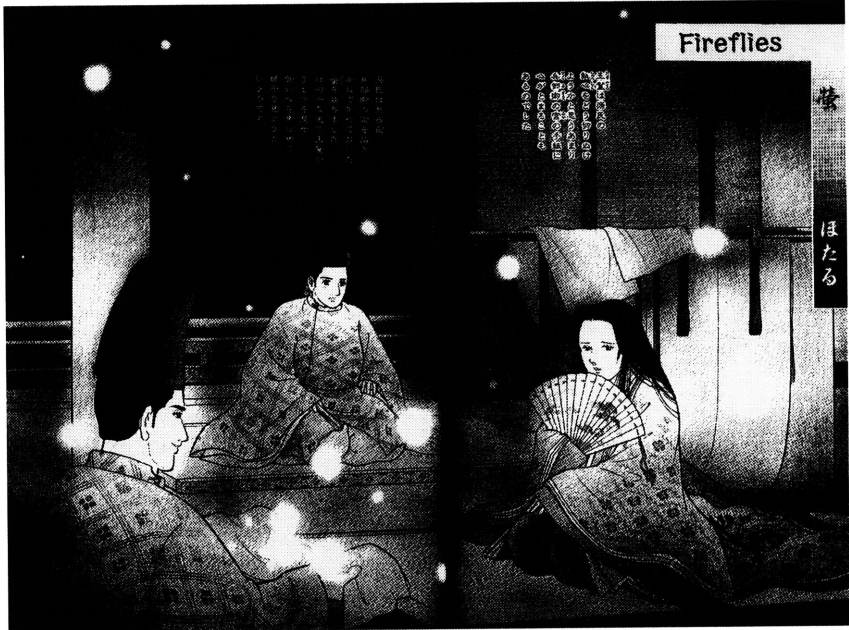


図13

米国の二十代から三十代前半の世代は、SFものを通してあるいは日本のアニメをテレビで見て日本の漫画を知るようになったと言います。それより若い世代は英訳された日本漫画がすでに書店で入手できた^⑥し、上映されたポケモンやもののけ姫も漫画への誘導物になったに違いありません。日米のアニメと、ある程度日本の漫画に親しんできた両世代ですが、それでも、「自分からすすんでつばい源氏を読もうとはしなかっただろう」と彼らは言います。彼らにとって漫画の魅力は迫力のある面白い絵とアメリカのコミックスより多様で複雑な話^⑦であって、つばい源氏はそれにあてはまらないからです。

事実、つばい源氏はアクションや動きの詰まった少年漫画とも、潤んだ目を持つ西洋人のような主人公の登場するふわふわした少女漫画とも異なります^⑧。

それは、少女漫画の大和源氏と対照すると一目瞭然です（図14参照）。

つばい源氏は、静的で、音の聞こえてきそうな動きもなく、漫画らしくない

のです。上の方から「古典文学のよさをわかりなさい」と言っているようです。^⑨ 漫画好きの学生達でさえ、その効果的な読み方も想定された読者層も分からないと答えました。おそらく、アニメも漫画もコミックスも日本にも縁のない一般のアメリカ人にはもっと冷たくあしらわれるでしょう。アメリカのコミックは、空想の世界や悪と戦うマントの戦士のイメージが強く、よくて大衆文化、悪ければ子供文化としてしか扱われません。ほとんどのアメリカ人にとって漫画化された文学は、クリフノートと呼ばれる文学作品の虎の巻と同様に映るのです。

つばい源氏の英語版監修の小中陽太郎は、「あとがき」でその英語版を紹介し、「源氏の一生を太い線で描き出すことに力を注いだ。(中略)日本に関心にある外国人はもとより、日本人にもわかりやすい平易な英語で、源氏物語を楽しんでもらえると確信している。」^⑩と述べています。日本人の読者も標的にしているのは興味深いことです。つばい源氏の英語版(タンスマン訳)は、アメリカの一般書店には出なかったし、紀伊国屋米国支店にも、長くは並ばなかったと思います。私自身も東京の八重洲ブックセンターの日本文学の部で見つけました。

小中陽太郎の英語版の流布には、彼が述べているよりもっと大きな狙いが有るのではないのでしょうか。シャロン・キンセラは、その著書の中で「漫画の海外輸出は、日本の官公庁や企業が欧米の組織や個人の協力を得て行おうとしている公的な管理された政策である。」^⑪と述べ、その企ての



図14 (右) ©大和和紀/講談社KC mimi)

例として1988年に英語版が出た「漫画日本経済入門」や、サンフランシスコ漫画博物館で漫画の主要出版社と国際交流基金と米国総領事館によって催された1992年の漫画博、パリとロッテルダムで国際交流基金の提供で催された1999年の漫画博を挙げています。小中は社会評論家で仏文科出身の小説家ですが、1983年から1984年にかけて米国各地の大学でフルブライト交換教授として日本文学の講演を行っているので、日本文学が米国であまり知られていないことを知り、彼が日本の大衆文化とデザインと技術のイメージの融合物であり、欧米の若者文化ですでに注目を浴びていた漫画を媒介にして日本古典の不朽の名作を広めようとするに至ったとしても何の不思議もありません。

つばい源氏を漫画というジャンル内で位置づけ、その「海外輸出版」の背景にある物が何なのかを考えてはじめて、つまり、日米の漫画文化のコンテクストを考慮に入れてはじめてタンスマン訳が効果的に読めるのだと思います。

6. おわりに

つばい源氏の問題点と文学的芸術的に優れた点とを足早にたどったつもりです。タンスマン訳は、漫画というジャンルにおける語りと画像化のルールを知らずには十分に鑑賞することはできません。また、登場人物の言葉や物語の背景である平安時代の文化慣習を訳を通して理解するだけでなく、原作の漫画源氏を生み出し、「消費」している現在の日本文化の知識を持たずしては、これも不可能といえます。さらに、日米両国の漫画文化産業の脈絡を考慮に入れて初めてつばい源氏の差し出すものが何なのかを理解することができるのだと思います。今後も日本の分野についてさらなる研究がすすむことを期待します。

〔註〕

- ①日本語版は、清水好子監修、つばいこう画『The Illustrated 源氏物語』1989年、新人物往来社。英語版は、Adapted and Illustrated by Tsuboi Koh, *The Illustrated Tale of Genji: A Classic Japanese Romance*, translated by Alan Tansman. Tokyo: Shinjinbutsu Orai, Inc. 1989.
- ②サイデンステッカー訳は、非簡約版と簡約版がでている。*The Tale of Genji* (New York: Alfred A. Knopf, 1976) と *The Tale of Genji*, trans. & abridged by Edward G. Seidensticker (New York: Vintage

Books, 1985) .

- ③大和和紀『あさきゆめみし』全十三巻、講談社、1998年～2000年。
- ④例えば、16～17頁で、桐壺の侍女は、簀子に向かって歩いて行くはずなのが、簀子の描かれてあるコマの反対方向を向いている。30頁では、源氏を見つめて涙しているはずの帝がやはり反対を向いている。39頁でも夕顔の花を見ているはずの源氏が牛車の車輪の方を向いているなど、数多い。
- ⑤クレアモント大学の日本文学講座で私が教えた学生たち（特に、Adrian Jensen, Stephen Vos, Heather Allen）に感謝の辞を述べたい。
- ⑥アジア系アメリカ人の学生は、香港、台湾、シンガポール等アジア各地に在住する知人や親戚を通して初めて日本のアニメや漫画に出会うことが多いという。
- ⑦米国のコミックスの中にも筋が複雑で面白いものも例外として存在するが、大抵は成人向けで値がはる。Frank Millerの*Ronin*、Neil Gaiman、Mike Dringenberg、Malcom Jones IIIによる*The Sandman*、Alan Morre、J.H. Williams、Mick Gray、Todd Kleinによる*Promethea*など。
- ⑧少年漫画は1980年以来漫画ジャンルの主流で、読者は中・高校生の男子だけではなく成人や女性も多いジャンル。少女漫画は、1970年代に力を強めたが、その後アングラ化し、今ではコミケといわれる「もう一つの」漫画市場の中心をなすジャンル。実際は、両者の区別は明確でない部分もある。アキラ、ドラゴンボール、スラムダンクが前者なら、ベルサイユの薔薇、セーラームーンは後者に入る。つばい源氏は、内容から判断すると少女漫画に近いようだが、1990年に雛形ができあがった情報コミックといわれるジャンルに属すると思われる。詳しくは、Sharon Kinsella, *Adult Manga: Culture and Power in Contemporary Japanese Society* (Honolulu: University of Hawaii Press, 2000) 参照。
- ⑨このコメントをくれたBarbara Ige氏に感謝する。
- ⑩前出『The Illustrated 源氏物語』p.307.
- ⑪前出 Kinsella, p.13.

* 討議要旨

神野藤昭氏は、大和和紀の『あさきゆめみし』は初出誌（『mimi』）が少女向け漫画誌であり、つばい源氏とは意図する読者層が違うのではないかと尋ね、発表者は、大和源氏は少女漫画でありストーリーを膨らませている、つばい源氏は、漫画による日本古典の普及を狙った「情報漫画」であると答え、さらに神野藤氏は、『あさきゆめみし』は後ろの方に行くと原作に忠実になっていく、と付け加えた。

吉海直人氏は、小中陽太郎氏は『あさきゆめみし』の英訳もしていて、左右逆になることによる矛盾はそこにもあると本人から聞いた、今回の発表での指摘は、つばい源氏特有のものと英訳漫画共通のものと区別すべきではないか、また、六条御息所の狂乱の描写で、江戸時代の版本は逆髪に、『あさきゆめみし』は衣装に蜘蛛の巣の模様がある、そういった独自性をつばいも意識しているかもしれない、と指摘し、発表者は、例えば『ドラゴンボール』の英訳は日本語版と同じく右開きになっていてこのような問題は起きない、と答えた。

Michael Watson氏は、2000年10月に講談社インターナショナルから『あさきゆめみし』の英訳が出た、原作が先に出版された方が後から英訳されたが、これは他にもあることであると指摘した。